

2024年3月期 第2四半期
決算説明資料

2023年10月30日
東邦金属株式会社

証券コード: 5781

TOHO KINZOKU CO.,LTD



会社概要



会社名
東邦金属株式会社

代表取締役社長
小樋 誠二

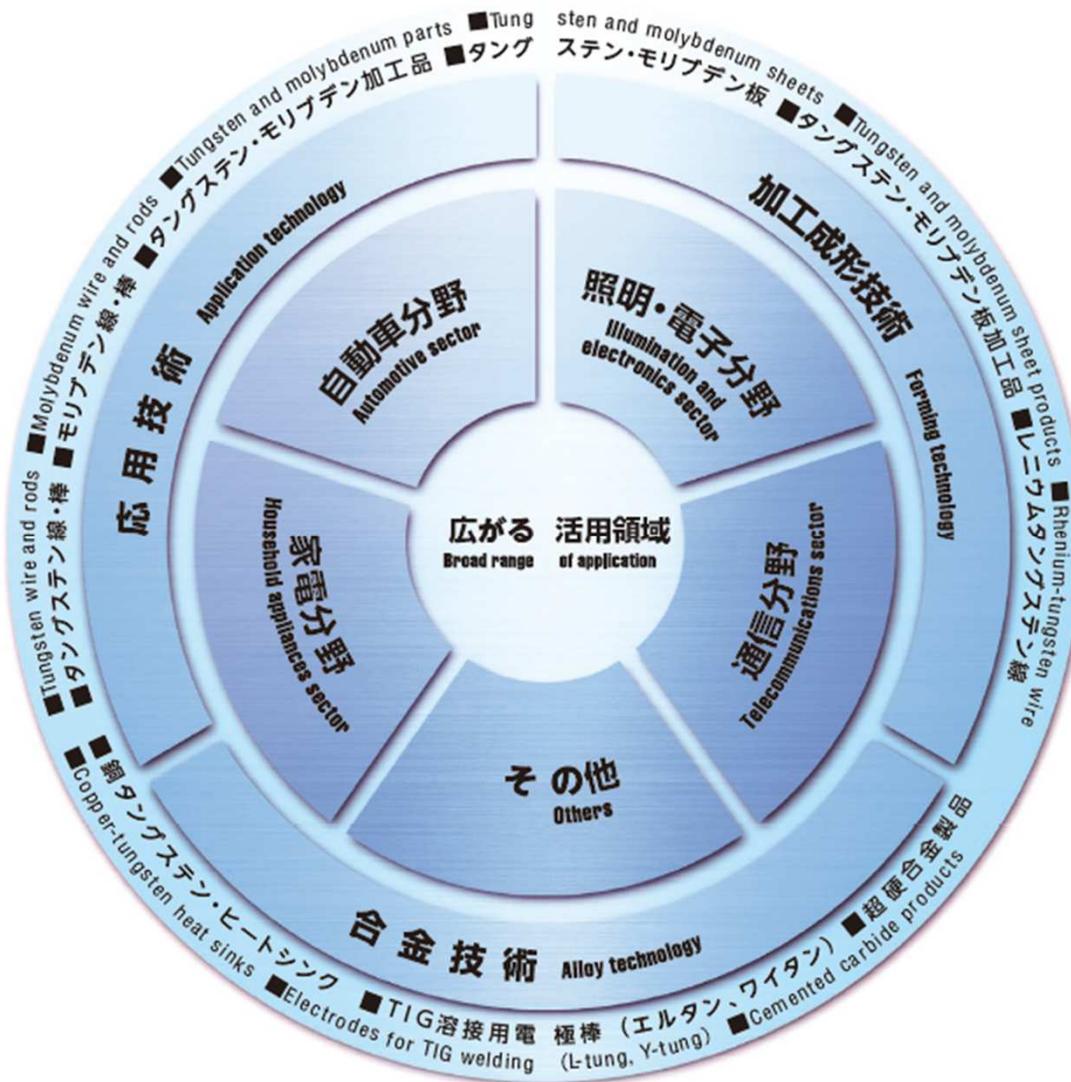
創立
1950年2月3日

本社
大阪市中央区備後町二丁目4番9号
日本精化ビル2階

事業所
東京支店(東京都港区)
門司工場(福岡県北九州市)
寝屋川工場(大阪府寝屋川市)

株式
東証スタンダード市場

💡 事業領域



モリブデンは、良好な加工性、高温強度、低熱膨張係数、優れた熱伝導度、電気伝導度を有しているため、マグネトロン用部品、半導体部品、焼結トレイや高温雰囲気炉用発熱材に広く使用されています。

タングステンは、究極の金属のひとつで、最高の融点と最低の蒸気圧を合わせ持ちます。さらに、高温強度、純金属中最低の熱膨張係数、優れた熱伝導度、電気伝導度を有しているため、フィラメント、放電電極、半導体部品、電気接点、X線発生用ターゲット、高温雰囲気炉用発熱材、放射線遮蔽材といった用途に広く使用されています。

 **事業内容**

1. タングステン、モリブデンおよび高融点金属製品の製造販売

2. タングステン合金、モリブデン合金および電気接点の製造販売

3. 鉾山都市土木用工具および超硬合金製品の製造販売

4. 前各号の製品製造機械設備の設計、製作、およびその販売



決算概要 — 損益計算書 —

(単位:百万円)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	対前年比 増減額(増減率)	増減要因
売上高	2,313	2,346	33(1.4%)	前期まで好調であったタングステン・モリブデン製品が減少したものの、貴金属電極等の焼成品が増加し、全体として増収
売上総利益	366	368	1(0.4%)	
販管費	241	256	14(6.2%)	従業員給料及び手当、賞与引当金繰入額等の増加による
営業利益	125	111	△13(△10.8%)	増収となったものの、固定費増加により減益
営業外収益	23	20	△3(△13.1%)	
営業外費用	21	9	△11(△55.8%)	
経常利益	128	123	△4(△3.9%)	
四半期純利益	133	115	△17(△13.0%)	

💡 決算概要 — 売上高 —

●売上高は、前期まで好調であったタングステン・モリブデン製品が減少したものの、貴金属電極等の焼成品が増加したことから、前年比1.4%増の2,346百万円(前年同四半期2,313百万円)となった。

タングステン・モリブデン製品

前期まで旺盛であった半導体市場での需要が調整局面に入り、販売が減少したことにより、944百万円(前年同四半期 1,029百万円)と8.2%の減収となった。

焼成品

貴金属電極における産業用特殊電極部品が自動車用特殊電極部品の落ち込みを補い、好調に推移したことにより、1,149百万円(前年同四半期 1,057百万円)と8.7%の増収となった。

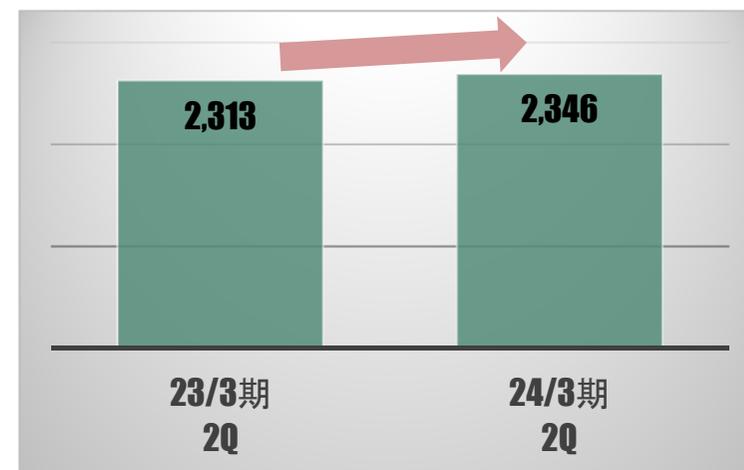
超硬合金

トンネル工事用工具は、横ばいであったが、鉱山・土木用工具が増加し、252百万円(前年同四半期226百万円)と11.4%の増収となった。

(単位:百万円)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	対前年比 増減額(増減率)
売上高	2,313	2,346	33(1.4%)
タングステン・モリブデン	1,029	944	△84(△8.2%)
焼成品 (内貴金属電極)	1,057 (54.7%)	1,149 (55.6%)	92(8.7%) (10.4%)
超硬合金	226	252	25(11.4%)

(単位:百万円)





決算概要 — 貸借対照表 —

(単位:百万円)

	2023年3月期	2024年3月期 第2四半期	対前年比 増減額	増減要因
流動資産	3,781	3,447	△333	
現金及び預金	404	413	9	
その他	3,377	3,034	△343	受取手形及び売掛金(△345)
固定資産	2,403	2,608	205	
有形、無形固定資産	1,412	1,466	54	
投資その他の資産	991	1,142	150	投資有価証券(+153)
資産合計	6,185	6,056	△128	
流動負債	1,719	1,291	△428	短期借入金(△300)、支払手形及び買掛金(△101)
固定負債	1,068	1,151	83	長期借入金(+20)
負債合計	2,787	2,442	△344	
株主資本	2,866	2,982	115	四半期純利益
その他	531	631	100	その他有価証券評価差額金
純資産合計	3,397	3,614	216	
負債純資産合計	6,185	6,056	△128	

業績予想

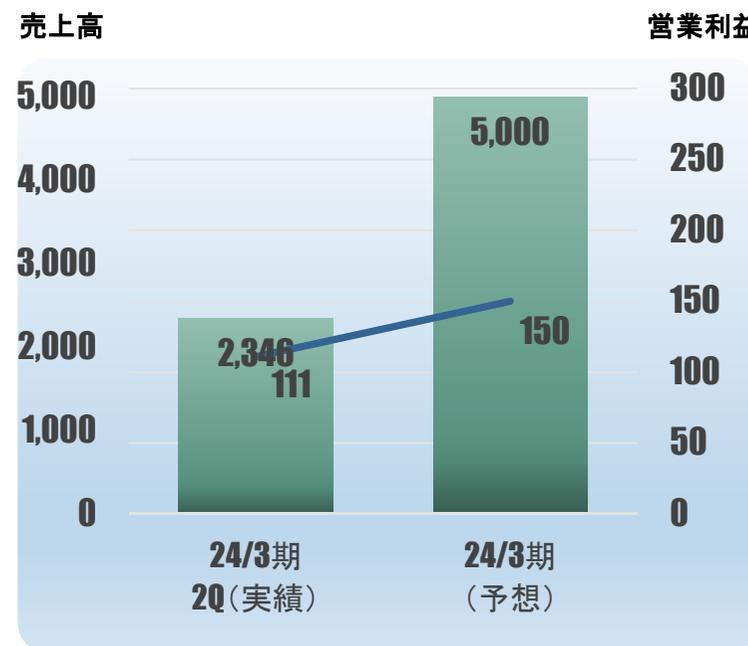
第2四半期以降も原材料、エネルギー価格の高止まり、半導体市場での需要の不透明感等により厳しい外部環境が想定されるものの、より一層の適正価格での販売の推進、原価低減活動に努め、更なる業績向上を目指す。

また、自動車用特殊電極部品の代替製品に対抗する新材料での製品開発は、想定の範囲内で計画通り進んでおり、今後については、仕様の詰め、量産時の工程検証を行っていき、目標とされる市場投入のタイミングに向けて、注力していく。

(単位:百万円)

	2024年3月期 第2四半期実績	2024年 3月期予想	進捗状況
売上高	2,346	5,000	2,654(47.0%)
営業利益	111	150	39(74.0%)
経常利益	123	170	47(72.4%)
当期純利益	115	150	35(76.7%)
1株当たり 当期純利益 (円 銭)	49.90	64.70	14.8(77.2%)

(単位:百万円)





PR情報

温室効果ガス排出量削減目標のSBT認定取得

当社は、温室効果ガス(Co2)排出量削減目標について、「SBTi(Science Based Targets initiative)」より、中小企業向け検証ルート(Target Setting Letter for SMEs)における認定を取得しました。

○温室効果ガス(Co2)排出量削減目標と取組について

範囲: Scope	削減目標
Scope1: 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)	2021年度を基準に、2030年までに42%削減する。
Scope2: 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出	
Scope3: Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)	排出量を把握し、削減することを約束する。

当社は、我が国で初めて粉末冶金法による電球用フィラメントの製造を行い、現在もタングステン、モリブデンの一貫製造・販売を国内で唯一続けている企業です。2022年10月から、当社工場部門では再生可能エネルギー由来電力への切り替えを一定量行いました。又、省エネ設備導入、LED照明への転換を進め、今後も事業活動における温室効果ガスの把握と削減に取り組むことで、「気候変動対策」「脱炭素」「カーボンニュートラル」に貢献し、持続可能な社会の構築に努めてまいります。



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION



本資料の取り扱いについて

本資料の取り扱いについて本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります。当社は、本資料の情報の正確性あるいは完全性について、何ら表明及び保証するものではありません。